



「啐啄同時」

所長 竹内 学

「啐啄」（そったく）という言葉をご存じでしょうか？
城西中学校の皆さんはおわかりだと思いますが、「啐」（そつ）は、「ひなが卵の殻を破って出ようと中から殻をつつく音」、「啄」（たく）は、「親鳥がそれを助けようと外から卵の殻をつつく音」のことです。確か、城西中学校の職員玄関には、額装された「啐」と「啄」の二文字の大書が、出勤する職員を迎えるように展示ケースに陳列されていたと記憶しています。



さて、「啐啄」は、教育になぞらえると、「子どもが主体的に学ぼうとするそのとき、教師が逃さず適切な助言や効果的な働きかけをする」姿ではないかと思います。その姿を禅語で「啐啄同時」と呼び、逃してはならない最も教育効果の高い時を意味しています。

振り返ってみれば、私自身、どれだけそんな大切な瞬間を逃してきたかわかりません。子どもたちのやる気を受け止めて、きちんと向き合っていなかった瞬間がたくさんあったのではないかと思います。なぜそう思うかというと、子どもたちのやる気を意識していなかったことが多かったと思うからです。反省しきりです。そもそも子どもは好奇心の塊で、向上心に溢れています。その「やりたい」「知りたい」思いを大切にしていなかったということは、子どもの学びを阻害していたのは自分ではないかと申し訳なくなります。

今思うのは、子どもがいつも向上心に溢れているなら、常に「啐」の状態にあり、教師は「啄」のタイミングにあるということです。教師の日常的な温かい励ましや働きかけ、巧みな導きが、子どもたちの「学びたい」に応える「啄」になっていると言えないでしょうか。

そうは言っても、何かが妨げとなって意欲がもてず、無気力やあきらめの状態にいる子もいます。その子の苦しい背景を理解し、受け止めることで、適切な「啄」の仕方が見えてくるでしょう。どんな子でも本当は「よくなりたい」と思っていると考えて間違いありません。

そんな思いと実践の積み重ねが、子どもたちの幸せ感も学校全体の幸せ感も大きくしていくのではないかと思います。

教育センターは、今年度も、子どもたちの幸せを応援するために、教職員の学びの場を用意すると共に、教育相談の各事業を展開してまいります。ぜひ、どしどしご活用ください。

「所報」は、教育センターのホームページでも公開しています。ご覧ください。

教育センターの
ホームページの
QRコードです。
ご活用ください。



令和6年度 教育センター実施事業・メンバーの紹介

教育研究部

教育資料部



吉越 良子 榎谷 聡 萱森 孝宏 山田 哲也 曾根原 至 横山 正夫 熊木 徹 村治 隆夫 高橋 栄介 野池 康一 内藤 雅代 板垣 希望 水谷 桂介 竹下由加理

◆学校力・指導力を高める研修を実施します！

特色ある学校づくりを支援する「学校づくり研修」を5講座開設します。管理職の皆様は1講座以上を受講ください。また、子どもの主体的な学びを目指す「授業づくり研修」、全ての子どもの学びを保障する「特別支援教育研修」「学級づくり・生徒指導研修」、職種・課題別研修など、内容を工夫した魅力のある講座を多数用意しています。詳細は、職員研修案内（校支援のライブラリ＞教育センター＞職員研修案内にも電子データを掲載）をご覧ください！

上越理科センターはあなたの理科授業をサポートします。

新採用の方、久しぶりに理科を教える方、まわりに実験や観察方法について相談する人がいない方、初めて上越市に務める方、幅広く理科の知識を身に付けたい方、そんなあなたに寄り添います。

- ◆研修では授業にすぐ使える教材がもらえます。
- ◆実験が成功するコツを紹介します。
- ◆授業づくりの方法を紹介します。

アンケートシステム申込期間が過ぎても、10日前まで追加申し込みができます。上越理科センターは8：30～18：00まで所員がいます。

先生方の困り感にいつでも相談にのります。

TEL 025-545-9248 E-mail chuorc@jorne.or.jp

科学研究部



齋藤 俊明 伊倉 智子 木原 義季 稲葉 浩一

DX（「デジタルトランスフォーメーション」の略）は、デジタル技術を駆使して、生活の営みや社会全体に（一部の作業のみならず）変革を起こすことです。

教育DXは、デジタル技術の利活用で、子どもたちのよりよい学習を実現したり、教職員の校務の効率化を図ったりして、子どもたちも教職員もわくわくするような変革をねらいとしています。

情報教育部では、わくわくの高まりを願いながら、情報セキュリティの徹底と教育DX推進のための研修の充実に努めます。

また、各校の教育DX推進やICT機器の利活用及び保守、校内研修を支援します。

情報教育部「教育DXの推進」



遠藤 栄志 仁田 裕子 久保田 季樹 小山 かつお 土屋 郁夫 藤田 賢一郎 古澤 則夫 木浦 聡美 高島 菜央 竹内 久美 渡竹内 毅 正夫

教育相談部

教育相談部では、児童生徒の落ち着いた学校生活の実現や幸せの応援のために次の事業を行っています。

◆学校訪問カウンセラーによる「学校訪問相談」

定期訪問（市内小学校）、要請訪問（市内小中学校）

◆電話による相談 電話番号 025-543-2199

「子どもほっとライン」（24 時間）

◆面接による相談「来所相談」

中央・南・北教育相談所（平日 9:00～16:00）

◆電子メール相談（平日 9:00～16:00 受信・返信）

アドレス jecsoudan@jorne.or.jp

◆不登校児童生徒への支援活動

教育支援室子ども未来サポート CoCoMo 南・北の
開設（平日 9:15～12:00 13:00～15:30）

◆JASTによる学校支援

学校訪問カウンセラー



相澤 圭子	遠藤 俊幸	宮澤 忠明	西田 美樹	松田 彩乃	岩島由起子	藤田 由江	乾 千賀子	関間 久子	富永 清文
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

◆「カウンセリング研修」の開催

・夏期：7/30(火)・31(水)・8/1(木)

・冬期：12/25(水)・26(木)

教育相談、生徒指導や学級経営等に活用できる講座です。今、抱えている課題や悩みの解決策を模索している方、力量アップを目指す方…。是非ご参加ください。

教育支援室 子ども未来サポート CoCoMo 南・北



CoCoMo 北

CoCoMo 南

諏訪 安貞・片山亜梨早 目細 敏子・田中 敦

昨年度から、「適応指導教室」を「子ども未来サポート CoCoMo」に名称を変えて2年目を迎えました。

不登校児童生徒への個別指導や体験活動などをおして、学校復帰をはじめとした社会的自立ができるよう支援します。南・北教室それぞれ2人の指導員体制で、学び直しを意識した学習支援、社会性の向上を視野に入れた活動支援を展開します。「CoCoMoは、家庭と学校以外のもう一つの新しい居場所！」このスタンスで、通室生一人一人の通室スタイルに合わせ、個々のニーズに応えながら、子どもの未来に向けたサポートができるように役割を果たしていきます。

JAST（じょうえつあんしんサポートチーム）設置から15年目を迎えました。社会は急激に変化し続け、小学校、中学校が抱える課題も一層多様化、複雑化しています。JASTは、学校だけで解決が困難な様々なケースに対し、学校が主体となって早期解決できるよう、チームによる支援を行います。

「学校内外で非行など問題がある場合」「いじめ、不登校などの課題の解決が困難である場合」「学習能力の問題や発達障害が疑われる場合」「虐待が疑われる場合」「保護者対応が難しい場合」「外部機関との連携を相談したい場合」など、一人一人の子どもが抱える課題に沿った支援を、学校や保護者と連携して進めています。

全ての子どもの学びが保障され、すこやかに成長しているよう、今後も取組を続けていきます。

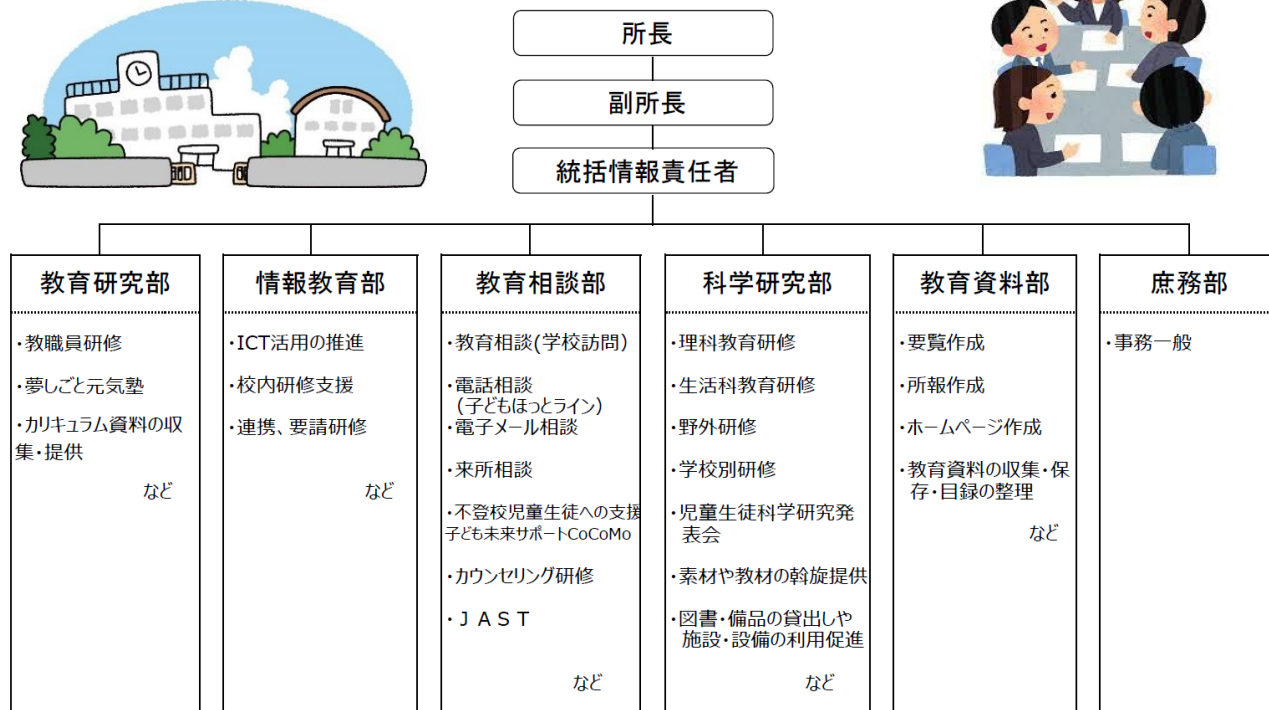
じょうえつあんしんサポートチーム (JAST)



宮澤 忠明	吉越 良子	藤田 由江	丸山 邦晃	鈴木真理子	加藤 一穂	山田 哲也	梶原亜紀子	板垣 希望
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------



教育センター組織図



🍀🍀 **ご活用ください!** 🍀🍀

来所相談

来所相談は、保護者、教職員の皆さんや子どもたちが、学校生活や家庭生活などで悩んでいること・困っていることについて相談所を訪れて相談するものです。

- ◇中央教育相談所（教育センター内）
- ◇南教育相談所（CoCoMo 南）
- ◇北教育相談所（CoCoMo 北）

- ◎相談日 平日
- ◎相談時間 9:00～16:00

※事前に電話で予約を受け付けます。

- ◇中央教育相談所：
025-545-9247
- ◇南教育相談所：
025-522-2428
- ◇北教育相談所：
025-545-0780



子どもの心に近づく



「安心して心を開ける場所に」

学校訪問カウンセラー

乾 千賀子

「こんなに本音を話したことは今までなかったので、すっきりしました。」カウンセリング体験で友人関係の悩みを話していった子どもの言葉です。

上越市の全小学校では、全校児童が気軽に学校訪問カウンセラーと話ができる環境にあります。教師でも親でもない第三者的な距離感の存在だからこそ、子どもたちは安心して悩みや抱えているストレスを正直に打ち明けられるのだと思います。

子どもたちは、毎日の生活の中で傷ついたり悩んだりすることがあります。学校訪問カウンセラーとして、悩みや愚痴を話す子どもの話に傾き、励ましの言葉をかけ、寄り添い、心を支えながら話を聴いていくことで、子どもの心は軽くなり、話す前より前向きに考える変化が見られるようになります。

これからも、子どもたちの元へ足を運ぶ学校訪問カウンセラーとして、子ども一人一人の「今」に大切に寄り添い、「わかってもらえた」と実感し、安心してもらえるサポートを心がけていきたいと思っています。

